

大学におけるメディア活用教育の効果と課題

匹田 篤[†]、長登 康、稲垣知宏、隅谷孝洋、中村 純

[†]広島大学地域連携センター、広島大学情報メディア教育研究センター

hikita@hiroshima-u.ac.jp, nagato@riise.hiroshima-u.ac.jp,

inagaki@hiroshima-u.ac.jp, sumi@riise.hiroshima-u.ac.jp,

nakamura@riise.hiroshima-u.ac.jp

1. はじめに

社会における情報メディアの活用シーンの多様化、高度化が進んでいる。また企業や個人が気軽に情報を発信することが、日常の中で受け入れられるようになってきた。教育現場において、それらに応じたカリキュラムを提供することが求められてきている。

情報処理や利用の技術を学ぶ、情報リテラシーとともに、それらによって生み出されるメディアの特性を理解し、活用する能力を高めることの重要性が一般にも認識されてきている。

このような背景の下、広島大学では平成15年度後期より教養的教育科目として主に学部二年次を対象とした「メディア活用研究」という講義を開講し、本年度に至っている。情報処理や利用の技術を学んだ上で、さらに能動的にメディアを活用するためのきっかけとリテラシーを習得させることを目的としている。

この講義から得られた課題について述べると共に、大学生を対象とした場合の現状の問題点など、大学におけるメディア活用教育のあり方について考察する。

2. 講義「メディア活用研究」の概要

2-1 講義の位置づけ

広島大学では、情報システムの基本操作を柱とした情報リテラシー教育を平成9年よりおこなっており、また平成13年には多目的自主学习支援環境としてのマルチメディアフロアを開設など、情報メディアの学習環境の整備を随時行ってきている。

現在情報リテラシー教育のための講義は、情報活用基礎および演習が提供されており、さらに各学部の専門的な教育へと発展していくように構成されている。

メディア活用研究は、情報メディアをより効果的に活用する実践的なカリキュラムとして、またメディアを批判的に読み解くメディアリテラシーの醸成を見据えて開設された。(図1)

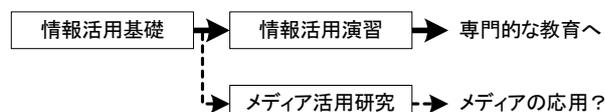


図1 各講義の関係

メディア活用研究は、本学に開設されているマルチメディア工房(西図書館二階)で実施している。iMacが3台設置されたテーブルが8組あり、また備品としてデジタルビデオカメラと三脚が6組あり、これらを活用した講義内容である。講義の内容を表1に示す。

表1 講義の内容(H15年度後期)

回	内容
1	ガイダンス
2	自動車のポスターを比較観察する
3	ポスター作成の基礎技術習得 (Illustrator, Photoshop)
4-6	[課題] 自動車のポスターの作成 (企画、素材収集、作成、印刷、発表)
7	報道番組を観察する
8	報道番組について考察する
9	TVCMを観察する
10	CM作成の基礎技術習得(iMovie)
11-14	[課題] 大学のCMの作成 (企画、素材撮影、編集、発表)
15	メディアを学ぶことについて考察する

2-2 講義における留意点

平成15年度前期に試行したオープンクラス「メディア活用研究」(全12回:本学の学生および教職員対象)による変更点、留意点は以下の通りである。

・課題のテーマを限定

受講生同士での課題作品の比較をより効果的なものとするために、課題のテーマを限定した。具体的には「大学のCM」を「Sホールの地域住民へのアピール」へと変更した。これにより、創作意欲の減退が心配されたが、同じ対象物でも各自の視点や演出によって、与えるイメージが大きく異なることを学べたと思われる。

・メディア教材のための素材の用意

マツダ財団のご好意により、本講座のために自動車販売促進用のビデオクリップおよび、多数のミニチュアカーを貸与していただいた。今回は自動車ポスターの作成に用いた。具体的素材をいかに見せるか、自分の手と眼で確かめながら作業をおこなうことが実現した。

